

**経営計画説明会
「YASKAWA IR Day 2026」**

ロボット事業

2026年6月1日（月）

株式会社 安川電機

前中期経営計画「Realize 25」の成果と課題

「Realize 25」の成果

方針
①

業界大手アカウントのプロジェクトでのi³-Mechatronicsソリューションの実証とリアルな価値創出

- ソリューションの実証・評価による実績積上げ
- YRMコントローラ、YCS（YASKAWA Cell Simulator）などのi³-Mechatronics製品群の市場投入とブラッシュアップ

方針
②

MOTOMAN NEXTシリーズを基軸としたソリューションパートナー拡大による新規事業チャネルの開拓

- MOTOMAN NEXTシリーズのラインアップ強化
- 作業性を高めた双腕型ロボット開発

方針
③

成長市場に対する的確なソリューション提供による需要取込み最大化

- BEV領域向け重可搬ロボットの市場投入
- 先端半導体市場への省フットプリント対応製品開発

方針
④

モータの一貫生産によるマザー工場の進化とグローバル生産力強化

- 新生産プラットフォームの完成（第5工場竣工）

「Realize 25」の課題に基づく「Dash 35」方針展開

課題

- 導入実績の加速
（横展開できるソリューションや機能、パッケージの製品化）

方針①

AIOロボティクスの社会実装の加速

課題

- コトの理解とソリューション提案の迅速化
- シェアの低下

方針②

i³-Mechatronicsソリューションの実践と横展開

課題

- AIOロボティクスの社会実装が不十分
- 利益率の低下

方針③

“コト”の広がりを捉えた製品開発

課題

- 農業分野の事業化
- 医療／医薬品市場の展開加速

方針④

事業発展領域（食・医療）の取組拡大

課題

- 第5工場の確実な操業と最適生産による収益性の向上
- データ活用による品質管理の仕組み

方針⑤

第5工場・YDXを中核とした収益性向上

成果の具現化と横展開を実践しつつ、デジタルデータを軸にした事業体質へ変革する

基本方針1 AIロボティクスの社会実装の加速

基本方針2

i³-Mechatronicsソリューションの
実践と横展開

基本方針3

“コト”の広がりを捉えた製品開発

基本方針4

事業発展領域（食・医療）の取組み拡大

基本方針5

第5工場・YDXを中核とした収益性向上



i³-Mechatronics
i³-Singularity

方針 1 AIロボティクスの社会実装の加速

■ AIロボットMOTOMAN NEXTの社会実装

200台を超えるAIロボット「MOTOMAN NEXT」の導入実績をベースに、更なる拡大を加速



■ AIロボティクス事業化に向けた取組み

これまでの
社会実装で
見えてきた課題

- 課題① AIロボット導入の障壁となる高度な専門スキルの要求と検証・導入プロセスの長期化の解消
- 課題② 拡販パートナーの拡大と連携強化
- 課題③ 新しい市場の創出

AIロボティクス事業化に向けた3つの柱

① AIロボットパッケージ製品
による拡販加速

② 協創に向けた
オープン化と
エコシステム形成

③ AIロボットによる
自動化領域の
更なる拡大

方針 2 i³-Mechatronicsソリューションの実践と横展開

i³-Mechatronicsソリューションの実践を通じて、付加価値の高いソリューションビジネスを展開し、加えて、第5工場の稼働開始により、ロボット単体ビジネスの収益力を強化する

■ 自動車市場

- ・ i³-Mechatronicsと自律分散を基軸とした提案拡大

■ 一般市場

- ・ YCS (YASKAWA Cell Simulator) の導入拡大
- ・ 人協働ロボットのポートフォリオ刷新による収益性向上

■ 半導体

- ・ 大手半導体メーカーをターゲットとした安川独自の Smart EFEM*の確立

■ 社内実証・実践

- ・ 第5工場におけるi³-MechatronicsとYDXの適用拡大

*Equipment Front End Module (機器前面搬送モジュール)
半導体製造装置の前面でウエハを搬送・供給する自動化モジュール



方針3 “コト”の広がりをつめた製品開発

デジタルツイン基盤を中心としたエコシステムの構築と次世代ロボットコントローラの開発を進める

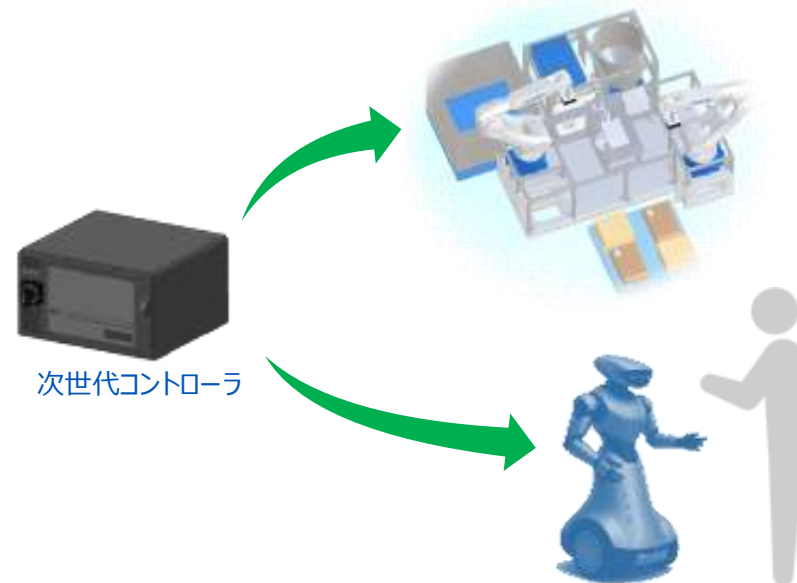
■ デジタルツイン基盤の進化

- ・世界中のパートナーがアプリ開発を実施できる
オープンプラットフォームの提供とエコシステムの構築



■ 次世代ロボットコントローラの開発

- ・i³-Mechatronicsの社会実装に必要な機能・能力を
備えたロボットコントローラを提供



方針 4 事業発展領域（食・医療）の取組拡大

自動化余地の大きい食・医療市場における、お客さまの“コト”を理解した自動化の実現と社会実装を加速する

食市場

一次産業 生産

種・苗・栽培・収穫 → 貯留・洗浄・選果・出荷

施設栽培
キュウリの
葉カキ



選果場
いちごの
選果



JAとの協業プロジェクト、など

二次産業 加工

受入・開梱・洗浄・加工・調理・盛付・梱包・出荷

- ・ エンドユーザーとの取組みによる“コト”のパッケージ化
- ・ パートナーと連携したパッケージの横展開



三次産業 調理・提供

調理・盛付・配膳・下膳

自社食堂の自動化を通じた実証



医療市場

医療分野のニーズに対応した“まほろ”ソリューション進化

- ・ GMP（細胞医薬品製造）用“まほろ”の導入
- ・ 次期“まほろ”の機能進化



グローバル市場での医療機関へのソリューション展開

- ・ 医療向けロボットの受注拡大
- ・ 国内の医療系装置メーカーやシステムインテグレータとの連携による市場拡大



医療向けロボット

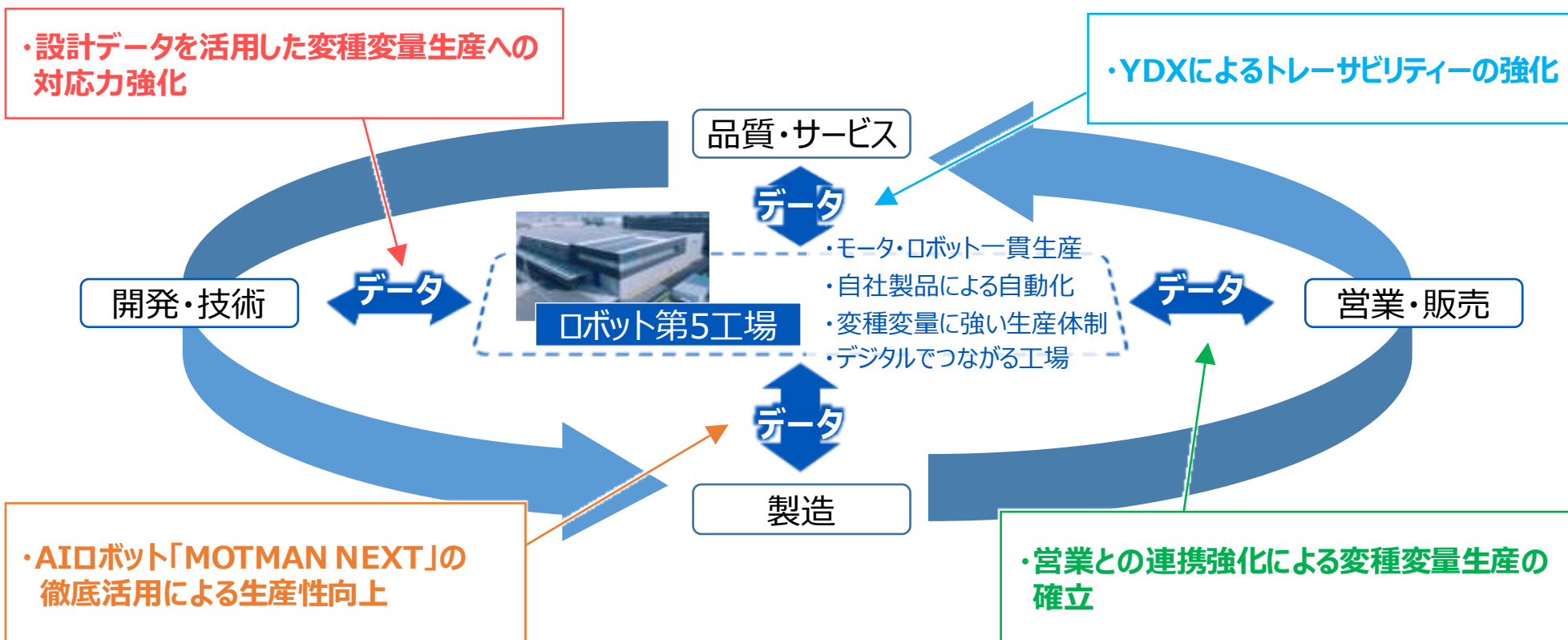


医療系ユーザーとの協業・連携

方針 5 第5工場・YDXを中核とした収益性向上

収益の「質」を重視したオペレーションへの転換により、収益性を向上する

- ・「生産量拡大型」から、「質重視型オペレーション」への転換
- ・ YDXによるデータの統合・活用を通じた第5工場を中心としたデータマネジメントの強化



YASKAWA